

清流ニュース

発行所
八王子市安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 総 祈 願
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第二年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成之御願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

新年のごあいさつ 住職 日堯

新年明けましておめでとうござい
ます。平成廿六年の新しい年を迎え
られたことをお慶び申し上げます。
昨年は、門祖日隆聖人五五〇回
御遠諱御正當の年として御奉公
をすすめてまいりましたが、中々
成果をあげられずに一年を経過し
てしまい、くやしい思いがぬぐえ
ぬ年となつてしまいました。時代
の流れとはいえず、今一層の改良を
教誨一体となつてさせていただけ
なければならぬと痛感いたしました
おります。それには、教誨共々に
させていただくご信心ご奉公の全
てが自分の功德となつて我身にか
えつてくるのだということに肝に
銘じてご奉公にあたるのが大事
です。ひとつひとつのご奉公を他
人まかせせず、率先して自らが
させていたただくのだという思い、
他の人のためにもさせていたただ
くという「佛立菩薩」の精神を發揮
して御奉公を開始していただきました
と思ひます。
特に本年は、「先住日序上人御
十七回忌御正當」の年です。
今日の清流寺が在るのは先住日
序上人の血のじむような御奉公
のお陰であることは云う迄もない
事です。
四年前に本堂がリニューアルされ
お参詣、ご奉公し易い環境は整い
ましたが、その時お誓ひした教誨
共々の改良によるご弘通の成果は
遅れ気味となっております。
御十七回忌御正當を迎える本年
は是非この点が成就できるように
ご奉公をさせていただきます。
本年度の当山の総祈願は
○佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
○佛立開花運動第二年度御奉公成就
○本年度自主教化誓願達成
○日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進
としてご奉公にあたります。
御十七回忌報恩御奉公として昨
年までご祈願していた「羽村別院
改修」は成就いたしました。当

年頭のことば 御講有 山内日開上人

宗門人の皆さん、明けましておめでと
うございます。新たな年を共々お迎えで
きたことを悦ばしく存じます。
宗門は昨年の春、本山において門祖
五五〇回御遠諱の大法要を盛大に厳修い
たしました。
そして、秋には佛立開導日扇聖人ご生
誕二百年慶讃佛立開花運動推進のため
五カ年誓願立誓式を執行いたしました。
本年は佛立開花運動の第二年度として、
支庁、布教区において積極的にご奉公が
推進されることを期待します。

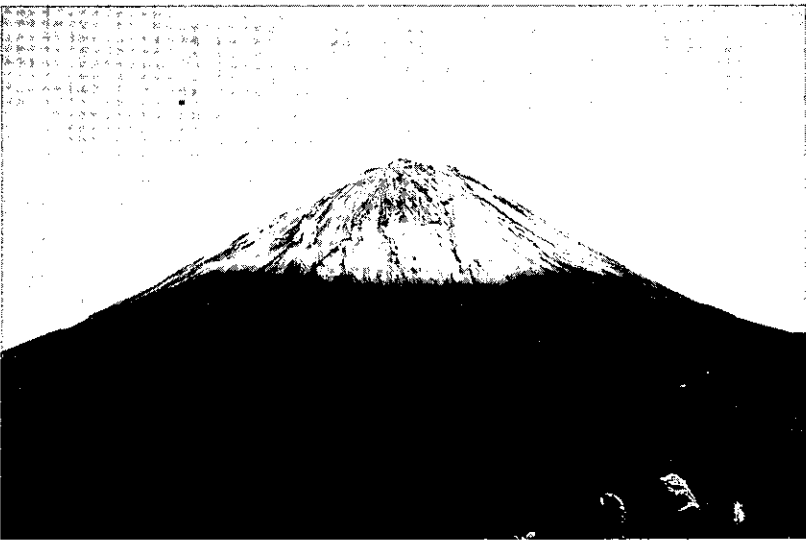
現代はご弘通が難しい時
代であります。そこそ
躊躇すればみ教えは、弘ま
りません。難しいからこそ
功德の積みどころと一年発
起し、来る平成二十九年の
当年にこの誓願を成就させ
ていただくとき、四海帰妙
の祖願達成に向かつて宗門
はさらなる躍進ができる
信じております。
また、昨年は日本人の勤
勉さや誠実さ、孝養心の衰
退を思わせる事件が続き、
加えて突風や洪水が各地で
相次ぎ発生しました。まさ
に、人心の乱れるときに諸
難が出来ると示された立
正安国論の御文の重さをひ
しひしと感じる一年でもあ
りました。

これらの天災は現代人に
真摯な反省を促す警鐘であ
ると、私は思えてなりません。
被災された方々の平安を
祈るとき、お互いのご奉公
がいたらぬことを痛感いた
します。
佛立教誨の一人ひとりが
信心を増進し折伏教化に努
めれば、その人の住む所に
ご利益の花が咲き、所屬の
寺院にご弘通の花が咲きま
す。やがては娑婆世界に
「万民一同に南無妙法蓮華
経と唱へ奉らば吹風杖を
ならさず、雨壊を砕かず
(乃至)現世安穩の証文疑
ひあるべからざる者也。」
(妙講一座・如説修行抄)
と、高祖大士が示される浄
佛国土の花を咲かせるの
が、我ら宗門人の使命です。
お互いは心を入れ替え、大
いに改良して末法悪世に下
種の御題目をお弘めせねば
なりません。

本年は、誓願成就の高き
志を持つて宗内教誨が異体
同心となり、ご奉公に邁進
されんことを念願して、年
頭の言葉といたします。
御教誨に
「心より 我身にひびきわが
身より 家国あめがしたに
ひびけり」
平成二十六年元旦
本門佛立宗
第二十五世講有 日開
御印



佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃 佛立開花運動第二年度御奉公成就



写真は中山上氏(東村山教区)のご提供

佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第二年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

このように本年度も色々なご奉
公が展開されますが、その一つひ
とつのご奉公が自分自身にご利益
を頂戴するためのご奉公である
ということをご理解いただき、人ま
かせにせず積極的に信行ご奉公に
励んでいただくことを期待します。
本年度は先住日序上人御十七回
忌のご奉公を軸として、教誨一体
となつたご奉公がさせていただきます
ようお願いいたします。
平成廿六年 度 信行ご奉公に精
進いたします。